

## コロナ禍におけるプログラムの実施 －プロジェクターを活用したプログラム－

社会福祉法人奉優会 デイホーム野沢

青木 一生、葭原 華陽

(プログラムの活性化 プロジェクター活用 ADL向上)

### 1. 目的

コロナ禍になり早2年近くになっています。それまでは様々な音楽プログラムや手工芸・ダンス・歌会などのボランティア様でプログラムを盛り上げていただいていた。コロナ禍の中、外部の方々の来所が出来なくなり、職員内で実施すべく方法を考えざるを得ない状況となりました。そこで、従来の書道・折り紙・ゲームに分かれての選択プログラムに加え、プロジェクターを使用したプログラムを始めました。



### 2. 実践内容

従来のプログラムは、書道・折り紙・ゲームに分かれて頂き、職員をそれぞれ配置し行っています。そこで令和2年からプロジェクターがフロア内に設置されました。プロジェクターは大きな画面でフロア内のすべての利用者様が見えるように配置されています。

撮影した動画・ユーチューブなどの動画、写真のスライドショーなど様々な形態を放映できるようになっています。

①他事業所の職員によるダンス体操・昭和歌謡集・三木住職怪談説法・動物おもしろ動画集、など人気があり恒例化したチャンネルを放映しています。

②折り紙や手工芸の指先など、スマートフォンでLIVE撮影したものを大画面で見せて頂いています。



奉優会デイホーム野沢

「夏の怪談説法」

### 3. 結果

ボランティア様の手助けにより楽しんでいただけることは大切ですが、我々職員によるプログラムの活性化を見直す機会が持てました。マンネリ化したプログラムを続けるだけではなく、新しいものを取り入れ、利用者様が飽きないプログラムを考えるようになりました。



